

長崎検定に出会って

森田 ナツ子 さん

長崎歴史文化観光検定の最難関を突破した1級ホルダー。  
その卓越した識見には、なにやら一家言ありそうです。  
ざっくばらんに寄稿願いました。

私は知らなかった、長崎検定1級に合格すると顔写真付きで新聞に載ることを。私が検定に挑戦しているのは、ごく親しい人にしか知られていなかった。新聞を見て驚いたと祝福の電話をかけてくださった方も多く、旧交を温めることができた。又、新聞の切り抜き写真を携帯して「この人、私の友達なのと自慢したのよ」と数人に言っていた

だき、恥ずかしくもあり、うれしくもあった。もう一つ私は知らなかった、1級に合格すると検定受験の動機や長崎に対する思い等の寄稿文を書かねばならないことを。もし、私に文才が備わっておれば、1級の文章問題に苦しまずに済んだだろう。

しかし、合格者としての義務は果たさねばならない。合格者皆様の寄稿文を読んでみた。私がいくら背伸びしても書けそうにない内容であった。そこで、背伸びせず、検定に出会ったきっかけや経過等を思いつくままに記してみよう。

これといった趣味もなく退職後数カ月経過したころ、手続きに出掛けた支所に掲げられた貼り紙が目が行った。

「長崎学検定講座生募集」。早速電話を入れてみるとすでに開講されていたが、途中から受講できた。2級合格目標の講座だったので、初回受講時は全問不正解だったが、一つの問題について詳しい説明がなされ、面白かった。これを機に「広報ながさき」に載る長崎学や歴史探訪講座に応募するようになった。

「脳の老化防止にいいかも」と検定受験開始し、1級の合格率が極めて低いのを知らぬまま1級を受験し、惨敗。そこで3回内での合格を目指したが、合格できず、5回内へと目標を変更した。

勉強法だが、図書館の郷土史コーナーに行き、読みやすそうな長崎学の本を借り、要点はノートにまとめた。近年、検定受験日が近づくと市立図書館に「長崎検定1級の会お勧めの本」のコーナーが設けられるので、その本の一読をお勧めする。同じく本についてだが、厚いのでつい敬遠しがちになる「長崎市史」だが、年代・読み方など疑問に思った時の強い味方になってくれた。「広報ながさき」には現在の長崎に関する情報が満載されている。

幸いにも4回目の1級挑戦で合格できた。私の場合は長崎学に関する知識がほぼゼロからのスタートだった。それで不合格続きでも、実力を積むのに必要な時間と捉えることができた。

長崎学の入門程度を学んだに過ぎない私には「和華蘭」ことばかり。これからも楽しみながら学んで行きたいと思っている。

最後になるが長崎検定に出会えたことに感謝を捧げたい。



【プロフィール】

定年退職後、長崎検定に出会う。小菅修船場跡ボランティアガイドに昨年10月デビュー